

開催の新しいイベントが次々誕生している。これらの定着化を通じて賑わいの創出をはかることが重要だ。多くの施策を打ち出す中で財政の見通しが厳しくなることも懸念される。既存の資源を活かしたまちづくりを重視すべきだ。最後に市長に。新たな施設整備に頼らず、中心市街地の潜在的な魅力を引き出し、市民参加型のまちづくりを進めて頂きたいが、どのようなビジョンで取り組んでいくか。

石森市長 中心市街地は本市の顔。そのポテンシャルを最大限発揮させるためにも、旭町・明神町地区の地区開発をはじめとした駅周辺の整備によって新たなにぎわいを創出し、中心市街地全体の活性化につなげていきたい。

佐藤Q 新たにできる施設・拠点の整備に頼らずとも、この地域の人材を生かし、市民の力やアイデアを活かす視点で、人と人、人とまちをつなぐようなシステムの構築にこそ力を入れて頂くことを要望する。

② 「働く」誇りを取り戻す！



生活困窮者の 住まいの確保

佐藤Q 生活困窮者の方々など、住まいの確保に苦勞している方に対し、市内の空き家や空き室を活用してはどうか。住宅政策を進めるうえでこうした視点はありますか。

まちなみ整備部長 高齢者や低所得者など住宅確保に苦慮している方への居住支援として、民間賃貸住宅への円滑な入居を促進するため、居住支援協議会を立ち上げ取り組む。その中で空き家、空き室の利活用について考えていきたい。

佐藤Q 生活困窮者の住まい確保の問題にとどまらず、今後は本市では空き家の問題が更に深刻化する。生活困窮者の住まいの支援という切り口から、他の課題、空き家の対策にも視野を広げ、本市が抱える課題と課題を結び付けて総合的な解決を図っていく視点が重要だと考える。生活困窮者の住まい確保に空き家の活用を積極的に検討して頂くことを要望する。



就労支援

佐藤Q 生活困窮者の就労支援だが、市内企業とのマッチングを強化して就労の定着に力を入れることを要望する。労働者派遣法の改正などにより雇用の不安定化が進んでいる。私たちの誰もが生活困窮に陥る可能性がある。その時に安心して行政の力を借りられる体制を作る必要がある。例えば社協と商工会議所の連携を更に深めてもらい求人開拓の有効性を高めるなど、市が中心となって支援ネットワークを強化するべきではないか。

福祉部長 これまでもハローワーク、民生委員、医療機関、NPO等の外部機関との連携を進めてきたが、今後も様々な分野の方と連携を進め、生活困窮者の早期発見と総括的な支援を実施していきたい。

佐藤Q 就労の支援というと福祉部、雇用となると産業振興部、というふうにはっきり分けてしまわずに、所管同士の連携をより深めていって頂くことを要望する。

101歳のジャーナリスト、むのたけじさんと70歳差対談をしました。

『週刊金曜日』の企画です。昨年6月の八王子市議会での安保法制をめぐる意見書審議のことに始まり、むのさんが見てきた戦前、戦中、戦後の政局について語りました。議員は相手を理解する名人たれ、意見の異なる相手と徹底的に議論し話をせよ、というむのさんの言葉が印象的でした。



プロフィール

1984年、岐阜県生まれ、
上智大学外国語学部ドイツ語学科入学
グラーツ大学(オーストリア)へ交換留学 ドイツ語と社会学を学ぶ
上智大学文学部社会学科へ転学部し、卒業
日本放送協会(NHK)入局、記者として事件事故の取材をし、退職
現在、上智大学大学院 博士前期課程外国語学研究科 言語学専攻在籍中
障がいのある子どものことばの支援、脳血管障害などによる言語障害について勉強中



facebook.com/azusa.sato.3720

twitter.com/azusa_sato11

八王子市議会議員 佐藤あずさ

super-azusa.net

「佐藤あずさと一緒に八王子をつくろう会」

連絡先(事務所) 〒192-0053 八王子市八幡町14-13

Tel&Fax: 042-626-7545 E-Mail: azusa.sato11@gmail.com

佐藤あずさの
活動を支えて
下さる方、
募集中!